

第2回検討委員会における主な意見等（概要）

産業人材の育成・供給の強化策について

資源が乏しい中で、何が大事かといえば人材しかない。山梨の経済を支えている中小企業の発展なくしては、山梨の発展はない。

工業高校の3年間でできる範囲には限りがあるので、さらに2年間学ぶことは必要。

学生を山梨に留めるためにも、県内企業の魅力や、工業系に進むメリットなどを学生だけでなく保護者にもPRしていただけるとありがたい。

県内の小規模企業は非常に魅力的なところが多いが、その魅力的な見せ方が山梨県としてできていないのではないかと。生徒から見て、何が魅力かという立場で考えた方がよい。

（産短大などでは）なかなか人が集まらないということで、教育の難しさというのを感じている。何が解決策になるかという一つは、ある程度高い教育を受けたときに、企業がそれを評価して採用するという（企業側の）キャパシティがあってくることである。ひとつ上で学ぶことがもっと魅力的だというものがないと学生は来てくれない。

産短大都留キャンパスの卒業生はまだ少ないが、採用した企業は、非常に良い人材が多いという評価をしている。また、ほとんどが県内に就職しているという良さもあることから、こうしたことを踏まえたうえで、産短大をどのようにしていくのか検討することが必要。

産短大を、高校ではなく、小学校や中学校の生徒にもっとアピールが必要。

奨学金とか、優秀な学生については授業料の減免や無料化などの制度をつくる必要があるのではないかと。

最終的には、財政的な面も十分考慮し、中小企業や学生の思いをくみ取る中で、県としての施策を、スピード感をもって結論付けていただきたい。

現状、育成する機関がない製造技術を担う人材の育成を、スピード感をもってどんどんやっていく必要がある。

せっかく山梨で勉強した学生が県外に出て行ってしまおうというのが結構多いので、県内に残るような方策を考えていただきたい。

（新しい教育施設で）何を指すのかというところで非常に不安な点がある。結局、選択肢が増えたようであり、産短大の学生を奪ってしまうだけで、少し拡散させてしまうだけなのではないかと。

どういう風に制度設計するのか、その中身が重要。どういう人材を育成するのか、どういう教育プログラムを用意するのか、どういう人が教えるのかというところが大きな勝負になる。

高専に進むのであれば、中学校卒業時に、もう進路を決めなければならないということがある。その時点で、進路がはっきり決まっている生徒もいるが、3年間保留して、高校の中で決めようという生徒もいるのが現状である。